

超音波検査により病態分類を試みた水晶体血管膜過形成遺残／ 第一次硝子体過形成遺残の犬の1例

金井一享[†] 堀 泰智 村田佳瑛子 島村俊介 星 史雄
伊藤直之 樋口誠一

北里大学獣医学部 (〒034-8628 十和田市東23番町35-1)

(2008年12月12日受付・2009年3月5日受理)

要 約

4カ月齢の雄のエアデール・テリアが、右眼の白内障評価のために来院した。完全な眼科検査とカラードプ法を含めた超音波検査 (US) を行った。一般眼科検査において右眼に白色瞳孔が確認された。右眼の眼底は、水晶体後方の白色組織のために、一部分のみ観察可能であった。BモードUSでは、水晶体後嚢下に軽度エコー源性の増加と、水晶体後嚢に接する硝子体内漏斗状構造物ならびに視神経乳頭領域へ続く細い直線的な糸状物が描出された。以上の所見から、軽度な水晶体後嚢下白内障を伴う Stades の水晶体血管膜過形成遺残／第一次硝子体過形成遺残 (PHTVL/PHPV) 分類における分類3と診断した。さらにカラードプ法において、これら遺残物内に血流のないことが疑われた。本例は、USを用いることでPHPVL/PHPVを画像として分析することができ、病態の分類と予後判断に有用であった。

——キーワード：犬、水晶体血管膜過形成遺残／第一次硝子体過形成遺残、超音波検査。

----- 日獣会誌 62, 720～723 (2009)

[†] 連絡責任者：金井一享 (北里大学獣医学部獣医学科小動物第1内科学研究室)

〒034-8628 十和田市東23番町35-1 ☎0176-23-4371 FAX 0176-22-8703

E-mail : kanai@vmas.kitasato-u.ac.jp